宝物集　（寛文元年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

資治通鑑 上

9181802

宝物集上

治承元年の秋薩摩の国の海を中に月二年の春
あらしはげしく吹てはしる世のうれはしの方
かぜはしたしくさかひをへだてゝ東山のふもとに
ゆくすゑおもしろき花のうてなに月のまへとして
しらべかなしきこゑをあはせはやうの
思ひをやしなひ花ひとゝろへくつきの松
つたてゆりかけるもん様にそゝ
三年の春ふかあらしとゝ一生涯の
とれるかしらへまさるゆくすゑ

あり給へるそなへて鬼界の島へわたり給へり海をしき
中にてしむ〳〵かの子一人をあはれみ給ふ事ハ
つくしの中せんぢ給へり世の中しらぬ海へ
き事ハ〳〵ゆゝしき事なり候ぬ釈迦の教主二
天竺へ渡り給へり給ふ時ハ中の人
をしらぬ人もしかり給ふ事なり
仏とも申ハ教主釈迦正覚なり給ひ
ぬ給へ恩徳とぞ申すなり
切利天の
ひ〳〵と優国大王のあるなり
前羯磨とうへ給へ給へ赤梅檀とぞ
こゝろとなり給へ一夜九十日なり

天竺へ渡り給へ時せんぢんの仏金銀水精
の〳〵ゆゝしき事なり給へ
我八十年の命えん給へ
せん多の仏の来世を
なりて給へ給へ
の〳〵ゆゝしき事なり
天竺へ渡り給へ事のわたり給へ
まりのんと思ひ二月十五日中門を
よろこの〳〵の事のりとぞ
おきれり春花門より
きり月花門のかさ海へ

かくまくものさうかくさとなつてはまとも目を苦ぬ
おれをしんすてこそ通りをまさて法堂より来りつき
てはかをはまくまたうしかはかをはくのへまりあつまり
稲麻竹葦乃つくしあつれ○おうらへいりて而妄
大悪教主釈迦牟尼世尊上大笑世尊滅罪生善法説
正念法生極楽しかるにあつて法花経のひとをも
うくはりれくよ高乃ゑ来りあつまり法人く
はくちうらひくはのあつまりてさむらかくありしう
えりまして老法屋法師つこの者もハみをひよ
きりんわりけるうへくちうり見とを海つつうさ
はゆきの中まてうをかふあまりはとうひくをあて

わうへ乃ゆうハ抑人の力おへなひう永一乃宝をてわう
むくつくさはうりへおくかくを義しかはとて才一
乃宝をあつくさはわをは人ゆをてとうゑ抑
きへまわへをハをかくの宝ゆハあうをかくさは
うりへうあくはとゆうんよりてうへのはとうん
やをかへきをれいたく遥へをてをあををれをはうえ
二へはをてゆをゆくよ金をんをあをくうを是をを
はうつををはのくはをて是をは日ろひはをを
ゆくを天知地知世知我知をりはよをををくはを
はをてう充へをををはあをををはあをを知ををうづう
ををしかくを充へハひのあうをうはかをををやう

まうしよりはとはそうしてさまたげおのれが拙く云ひて
いうしき宝のまこと廣野のあるく住うしうん衰ぬるひ
うしむ下新る牛ひとりあるいて海をまたうち
ありしゆうしは是てんのあるとそれ同如変た
しうのまこと又みそはしりおのれが拙ハ宝のれしく
は情きるすつあるあるのゆへを清の夢をしおきけ
しうしあるしうあるもあるくしうしるるあるのり
うしの時ハひろさ野中のたく一人あるうあるあく
あるしひハしあるゆうあるし貧苦しうし衰苦を
へうしうしあるまてうへんのゆへ衰滅うくのうしう
あハ海うしうゆせは苦苦てあるしあるく食ふ

まうし宝野のしあるくしあるはけるあるへてあるく拙
いあるく老と海とあるしあるあの金てあるうしあるゆ
まてうしうへうしあるよへくあるへうしうへしあるは
一年の長陸奥しうまて宝しうたうして大体のあ
拙るあるうしれあるまは

とうしうしあの時代うてんとあるまあるう

みうのあるあるある

つとく毒蛇のりとけるあしの雑ものを出そりて大
毒蛇のりとけこひのあるへ人ものを成ろく蛇のりと
食のあとをとろこひてらねしのあはつけよさこ
しをされくりけきて力及ひ是をまひをあり
打ちそうんして責とうあるときは仏乃
毒蛇とのひしを来をは思ひ合せけるあるを兵
親のりとりをのくへ百あ乃金をすてゆくみち
て打のへ百あ乃金をすてけるを見あゆへよ
するをとひあまを打のくへ殺りけ我此食
とりあゆへ親へあるりをへ百あをそうとひ
ゑてあはあるやと思へ一念をとりあるへ食ハ

うをしをとりあるとりかよ捨りあるりとひあまを見
成をのして我と世を殺して百あをとひあ
あるさやと思ひつるして用ひて捨てゆりよあ
をを断食乃業とりのくゆきを金をを家ハ
をとひ知よあるさを家やあるを業
一切乃たるを中よ如意宝珠すて我りとをたり
あるをひのを玉をひてハ又穀七宝をあり金
うをさゆきハ稲穂ハ人乃現世をゆのハ菓子
神あるをを後世をゆのを表ハ稲を神あるを
とみしありるをあるゆきハ神のををれりをは
ひつをあしをのををあるをひつきハ神のをれ

金ハ[illegible]ありといへども又そはりの人のつくる玉を
宝のまてるとす多の世の凡夫ハ玉を宝とし知てこれ
をふみくつがへすこと[illegible]弘法大師ハ玉みて
[illegible]光明一光をはなつ石尾とはこれ作[illegible]
[illegible]ハ[illegible]乃[illegible]
[illegible]ハ宝の一[illegible]人ハ[illegible]
[illegible]愚[illegible]
[illegible]額[illegible]
[illegible]骨[illegible]
[illegible]天竺の天[illegible]
[illegible]一[illegible]

して行のひさ震旦の白居易ハ空十六のとしかゝらを
[illegible]
世[illegible]乃[illegible]
[illegible]三十二相乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

昔為京洛聲花容　今作江湖潦倒翁

[illegible]

[illegible]

あひとなりて無人となりぬれば
うら枯れて遠のけをたつうつり
老苔の森れるあれをもちる
いりそなれうれしかりもう神と
ぬしはいかにかくやうにせ
ぬしは老をなげきやうにせ
ぬしこれ老のひとりあるうち形をはたらくあまを
ぬしこれ人をこそこれありみよあるきんん人をまう
わかまむ人さんのみの釈のためふ宝のうちかりく
中をしこ盗家こひしんの釈とし老ありこそく
ぬしこれ病をしけるふ長月の末ものうちめ
こうりは笑こふわうは抜ひてんと神ひ宝れそ竹の

ぬこいふ抜八宝月ぬ尾六月の始よりそ尾南を今八竹の
持ち長ぬり雪ぬりていふかりこむ尾ぬんのかこ
こ男ひかりこ巻費のふこ沈さぬまは毒表を
れしけて竹のねとふかりりこ先こ雪の中に
笑とぬて考こう釈の病をきひ苔ぬりみにかりこん
のふそて長の中のあんぬをりこむ手ぬんやま
伯瑜と云人の母きあて腹わこふけうく伯
瑜をしりまりこ苔かりこむこりしりこ生人の腹まて
をこ沈ぬまの母屋こく老ぬこうくまを子をこう
けうに伯瑜かこうぬこ先わここて世をこり
手ひここりこ今ぬこ沈まて立ぬこ尾ちをこ一度て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しゅうしんの乃ちの不偉学てうのしを治く万国の波浪を
あのさて振旦まて弱りて凡そひ者ハ大臣波とか
ってゆひとらひ因くかくて書治ひ久留
形破他列成灼鬼　爭飯舊里寄斯身
堂を凡そひらひ江戸乃の中ひろりうらひ治ゆむ
さて唐乃みくふらひけまりて日本へ来りて
塗り治りまにわ〜ゆむ人とうくしに波浪とりけく
唐まてらひ人ありんやはりうを治うへ波りて
うゆらまし人ゆまくありけるしんゆ又ゆう女の偽を
あうしまくかめゆくゆう孤幸をしてゆ義
と一の布拾りしに波みまくらくて偽く入ゆ留

むうゆりまこにらうくすへまし
あまゆひゆうりかさ乃ゆ和ゆ
ゆまハゆうゆ人し釈乃孝吉ハ
けうまれゆひ釈よんさしねくみゆう人と言てゆ
中ゆ
放京の乃伝ひのまさ
波りゆまハゆよぬさうひ放ってて
てかさゆハゆみさりけて
平乃様仲乃さ
思ひひ那えうて先ゆ墨波乃
ゆうてゆまへしりまねうゆ
源の五房乃中ねの言

後ろを見ると一羽と化した雉鳥
ありしかとそ飛魚と化りしよ
中納言家の白い鳥の
ちり色山ゆりひつくこそかのしけき
ひとりや苦の下ろ枯くらん
昔今のかくこそかんさし海く欲うのしむまもよ
おわくさんんの推ろ思ひうるよされてよかくんんハ
ゆくしるもし後世まそそ宝くの海さまみそうるくさ
秦の良郎くまくんくゆ用みとくおのと二人を炎魔
まうえよめくとまて浜くのかり沢ろきをたくされろう
か良郎ハなとのらゆかり冥途とうゆ海くさ若わり

そそさとそそ及ゆ用みハうくうくうくさみをとくさ沢
ものりてたちまちよ沢くゆ海ゆ海わさみ仏ゆ
雉を見てなをひるまいよわさ海くさ餓鬼のまくち
ちよまひみくさ雉仏よひてまりまくゆ仏
沢ひくくの海くくゆの世そそ乃罪業みくりゆ海
き餓鬼乃報とくゆとくくくたくくみ若とり
ひゆくよしみくくゆそくくゆのひくくくくくくゆ
を大周連るゆ母の寄提女の餓鬼乃ゆくゆ沢ひく
と僧と寄くくくくくくく

乃ものしり人にて孝養乃ふかき人のよし乃新の
ためふかくおろかなるをとがめ給ふ仲文章とやう文よ人
えり郷嘯といふの父をうらしろ人毒蛇その方を
すし又周夢といふ者母をとりしろ天のかう祈ら
てその方をとく又摩訶陀國乃ひ屠世まへいまこたち
子にてあり一ぬけ時父乃頻婆娑羅王をほ
うろ一ぬるく出位をそうんして横ようをたた
まひ出ハ母乃韋提希夫人なりみのひくを
うたくまこのとりあをねりこのひて大まふかめ
をたをり行ふひとり太子ひのひくをくかり
こうさんとひろらの命をたけうとして紐をふき

ひく韋提希夫人をいせんとあるとと春嶽月光して
二人の大臣おひやうく父をころひの一方八ふ人ありて
をころもの八まこゆをうひ母の四命をたすけの人
八二人の大臣ひ人をしこ一ぬ出八母乃四命ひうりを
たすけまひ父をはひのふかうろ一のしこみ
貧苦ある者八子と屋一のひくをのしのこのひの
いろ一ひのさをすてねて冥途ようしの時ひく
ろ一くをまこをたるをとりさうのし激流のこ海
たゆ一ありすやれて者六天の魔を一切衆生乃仏屋よ
ろしうをとうさんとて者ひくをのとゆ八歌しゆ
ひくるおろ八恒伽川乃かりふまろ一き女人のさるし

本あり山の雜佛よ山ゆへとこひ給へ仏の御くし山女
ちらし侍りしけさ山ふの子羅とは侍山ゆへよろ
ものつふものてらむ山そく侍りしかは山ふと
家に入たる人ハ命かすくこう宝可し仏六の
まれ高帝ふまりて人を寿成と命のあれ成
うきのてりうしかせん多んの燃このりをまてそとて
ゆしこハ天山月りこ地山を高くおくきんへ

後鳥羽のゆきてうの歌

ちやまこの雲やたきあらん
ちりの山てこの月をたく

法鷲の溪成の法ひして天山の仏上を敬くこり 劍晨

仙家よりもてやそゆこハ思ひ給まても七世の孫よりひ
いのちのありしゆへし仙家ハ経の雲とうひ巻の蔵とのく
命を家と云ひく数とのつるゆくし山ハ堀川の右兵衛の
京小

あまてこせくこのちの月しけさて

ひてそへりこりあり者り

ゆとに命ハ侍りきあの法命てて宝てあきと
ひけさハ又そはりかのまり山契て命と家に仏
ちへとし老の宝月のひあさハ命ハ法の宝うれ
ひりくこのよ仏けてそありかれ宝のれくゆきれ
ちれりわりやりの女の契て柳仏月宝てこむ
つもれを聴法ゆさやとひれを仏のかまりよ山僧の

いたく三宝として仏法僧の三つの宝をうやまひつとめ給ひ一代あるを
教ゆるが来りらるるものひとは愚僧くらべてかわるとも
つとめ給ふ国王の御ゆへけの名をば普安大王と申す
をりの御ゆへ人の王まいりまいらせて服従
をこなひをなしみ方位をもつて教をむかひ
人の国をとむへく山海の物をとりの人の面をすすめ
すすめ普安大王の海をもつて作り人は国をもつ
とをこなひをなしをれをもつて
ひとつの人の王我は国の位をあらそ
ひをけるひとつ人の王我は国の位をあらそ
ひをけるひとつ人の王我は国の位をあらそ
ひをけるひとつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とくんぬるを仏法乃未ていかゆりうへた
和世ゆるし宇十餘年のわてさゆりの法とくをのつるみしみ
お仏乃無常ゆりかくその文と中ゆ　一切の為法
如夢幻泡影　如露亦如電　應作如是觀　此泡乃ん
一さのわ亦乃のいるる義幻夢乃あれ泡さのわ
まへてしかくて観とくしたらみいまく
此日已過命亦滅消　如小水魚　斯有何樂　此文八分日
すてすきぬ命とおいらのしてすくおきあれのあく
しあを仏の無へしくわんとおりて又維摩経乃十餘
てよのたくへしく山乃水よりて月乃ちくゆあてしる
とくゆ仏法ゆくく仏乃無常を観して仏法を安くゆ

ゆ仏法を一反維摩経のくと紀美之ゆ
ゆあむ仏乃ゆあ庵くを月ゆ乃
わくなれの世てしすむゆ
又桜の傍ゆ
ゆ紀乃義乃ゆあ小川乃ゆあくと
ゆ紀乃義乃ゆあくみる桜花ゆ
ゆるゆうくゆくゆさくん
ゆを反仏乃無常是生滅法生滅こ已寂滅為楽と
観せんゆ仏乃窓をまゆるし仏乃無常ハ天と乃乃
ゆ是生滅法ハ欲乃海をゆる丹生滅こ已ハ仏乃紀
乃山をゆ乃東寂滅為ゆハ八相成道乃仏果ゆりけゆよ
尺紀乃義因位乃時雪山童子ゆあ海ゆけゆ紀

天の帝尺迦牟尼仏と云鬼よりあたんしあくまちよぶくうむ
ぜーくうめつりくの二句をとなへし時童子共百ひろ
あくしみいまさ者の中に用しくいたきをもつて作
りたて祇園の門くろかねもつて作りたる
り我人の血をすゝりのむ命をつまふわ人のすす
多の白をとらもちひをくて童子共いとく命をわ人て
のちかふりのさたりよまつ者の白をとりて人の聽用
して命をすゝ者とはのひし時生滅已寂滅為樂
とあるは童子共を聽ひくさうしも者ありさ
雪山の麓より谷よむひくまをかけのひし時釋迦
牟尼仏なりはをとんさあく命すてのあるさよ

わ人はよ者ひそりはまは米偈よ方をかけこゝふるもの
あまくし祇園精舎の濱しけみをとるへしくいたんを嫁蛾
のあるの命みくいてうちよをもむやうとをたんぜさ
らんや渇摩のをとるをさ者ありあんをせしやうのわをと
をををををんあるいさはへいきをまさはるの尖の者の
をとるいをとの樂をわんん金剛聖者位をけをとを
いみしはあのえをさうあるむいたんやをのををくよあるを
をを者ふはをへををのくををををををををををををみくい
ををよあひをを流へく冥途のをひよあるむんを中あ海
しきをりかしをへへはをををををの海鵜ををんしく
鵜釋をはりをあるりはをはゝ許田をひしのへ位をはく石

きうりを皮ごとに頼川とゝ川とて耳とわりひしゝハ菓子と云
のひりときてゝ[illegible]川乃ゆれときうひしゝ也あまみる
あるきくしむ[illegible]とらんすゆゝしみ[illegible]言太子乃千年
むとうゝ[illegible]別成太子を[illegible]と辨しゝ[illegible]ひしゝ也せしゝ
ゆゝとゝりまつゆゝしゝ也荘周ゝひしゝ人の義
ゆゝ小百年小蝶ゝりて花のゝ人よすゝけゝうゝ[illegible]ゝて
義ゝうゝりゝゝ[illegible]ゝくゝ[illegible]ゝけゝゝとゝ[illegible]の遠廣のあよ

面ゝ也ゝゝ[illegible]ゝてすゝゝてき

ゝの世ゝてゝの花ゆゝをゝりけゝ

是ゝゝ[illegible]ゝゝゝの世ゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝ海ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏聖の喩絵よりそれをたとへて人二人をゆくとしてわ海
し東か一人のり・只今併を三のひろさをんよつく
せんすると海一人のりてつくつくひく今つのをし
中ちりりてとくあとりつやとよんつけ海の
ちつをとをとつし用ひをを用ひつやゆけ八用ひつやよ
をめとろんしてさうひとり濁世末代の衆しやうも
このつやうのさ極楽とわとくとひくとろりの人よつさ
ひろんすると生死無とて生死のハうの[illegible]死ひろ

[illegible]

わるのしを生の死のてをのまく常住をのをのしをと
ひとく行基菩薩ハ浄土ふわとくをんかりをもの和う
ようのをわをん聖流よりをもむかり俗ちひよちさ
ふんわをんをのをひをりをとくけんよたりひ浄土を称
うひて聖流よたりをまをのハ悪きかりんハ男にををとく衆
大海の底を行をとりかて八万由旬の須弥山のつをを死
より高をを下してみをとをけをんをりをを海をのを衆
をるを仏法よりをくををハ一服の毒乃浄水よのりををを
けをひ仏法ををををををををハ又をををの時をを弱せんををを
野よ乃つをを海ををををををををををををををををををを

来りて陸地に浮ぶ船しばらくありて人々こゝを法花
侍賢門院の誓願のこと

ありまてこれをふかくおもふべし

昔の唐の天子乃賓客白居天人生てく百年を毎日
ひとつの教をかたるに三百六十日ありその百年を
たゝ者八百人の中ふ一人し西かゝ光明ふ定のこゝひ
ありまに命はさていまを乃賢道ありまの山ふすてらを
てい体をあらう変化してつらかたとあるむすん
とう者り流よ今生の方はてへつあてあるくつきる道
えて清水観そう菩薩ふよ赤子乃生れ者の仏

ありしあるかたるのれるふ仏乃法ありまにあるあ
ありひ乃ひ乃時てあり仏世乃中ゝ
そらの物あるのてとあり極く
又あの斉天乃大師の高乃
きくしてん病れとあるのを仏ところ
ありまの僧人乃おや業ありらん
ゆまてれ人いみる仏乃ゆ者とをんし仏法の宝をまふ
ゆゝんしみ法乃教法ゆい見六乃元生貧窮乏福恵と
元をれ人ゆいの六乃元生を見生へ貧窮ゆてあく
ありとし世世大臣ゆまゝしさへし仏法を流
りすゝ人乃ゝ宝をまふゝものまは物利天乃僧

千歳とあひのこと大梵王天乃御孫定乃あの
みて仏法と御ひせんの八ちゝ縄とむすい五とき
きみく物の数とそこあ〜むゝ大みてんわるん八死のち
四とあのこれかつと見くらゝ数き来とうんして生
死之苦とはこゝりをいとんや 欲界天まの世代よは
しめて聖数ゝ人ゝとゝり上宮人乃四時より佛
法日ろまりてゝらんわるん八こゝ五ちよこうむしやうゝり
とゝり仏法と御ひすゝりとゝ色ゝの罪業の
わゝきりの八仏法のゝゝりとすゝ八耳とあひ目とふ
しゝくあつくゝゝきむくしあまゝみゝ言ゝ世ゝくのす
りとゝるゝ人ゝ人ゝりゝ世ゝ死死義業とうんして

仁和寺ゝ世ゝむゝ乃御ゝ

ゝゝゝ

まそこ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

うくのありさまをとりあつめて七宝の網をもつて此こゝの
ゆかをしきらしつらひ繁華をきわめいとわりの刀林をいたし
くして殊勝の中かみ人てりかゝやき彩のつゝまこゝ
すくみかんまくひ牛頭馬頭のをそろしき姿夜叉
形をうつしかけハ劫の林業かりて此のことを
ゆるせようむけて猛火をもやくにかハ入かんとせ
と同ゆらけうとすることをもつて劫ハ閻王彩形の
かゝくんをなすむかいて此のゆ一日のゝ二日のゝ三日
量を数劫乃わつさるをみをくゆ一年ゝ二年
かつす百千万の虫ゝ多ひくゝ鼻大城のゝ
劫ハ逢ハ来ゝ二ハ年乃ゝ

くゝのゝ紀来ゝ三年ゝ
一千劫ゝ此の一劫ゝ八十億万の石を梵天の三銖
乃衣をきかへてゝ石ゝ羽衣をもつゝ三年ゝ一劫ゝ
かつてゝ此ゝ一劫ゝ山ゝ若患をもつゝ
来中ゝ山ゝ苦をゝ此ゝ紀ゝ
多付ゝ苦ゝ此ゝ食ゝ山ゝ
日義上人安立乃食ゝ秘密瑜伽の
法をゝ死入ゝ此ゝ延喜の帝ゝ
をりけゝ此ゝ二ゝ此ゝ
かんちゝ我ハ文寛平法皇のめゝ紙
をむさをり安寛ゝ菅原の大臣をゝ此ゝ飛

ゆゝしき今世にまれなる苦とうけ給はるに妻をめしてこれ
をもてあそびかしづきとすべきことなりとおぼしけ
れば世にまれなるこの時帝にあつて地獄
にてこの罪のあるべきことをあらはしたまふ
のちこれをいとはしたまふ
のちまことにあらはしけるとぞいとおもしろくいかなる
れて高麗の釈迦仏をうつして強盛の
ものにあらずとぞ入れたまはば
新利と貢地獄にあらずとぞ
仏をうつしたてまつりわたしたる
乃絵にきたる屏風をうつしたてまつる
わさをしたるものえあたらしまて

なかの山寺にあるなりけり
ちくいちとうりの名を持る郡忠とこの地にとりてはこ
けりとて因幡寺宴隆法師冥官よまりて白河の
御堂の法師なりけるとぞ海にまさしくまことに
しけるとぞ海にあるとて尺迦仏をうつ
強盛なりまた地獄にいたる者を来りて決す 餓鬼道
とりの事は安量の苦患ひまなりとぞ孔僧
乃うまれたるのちに法戸経城のごとく百歳のわつ
食物をはすてとうやし師子国の死は七歳まて
海の山なりとるひとの名をふきさしたるものの
をとりて死とうとたすけわひいとをとりひく命をは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひいろ〻ふるりて命しとしかひわろむい蟻のいたり
りて永れわろほとそうして三十日傾城りろまてう
一ちて白〻とうけたるうるかりてそくか畜生
乃ふ生ろ〻のハあろうかくしとも白鼠の嗅猫屋の
乃蟻の色を八方勅ちくしとりき又未来八方勅畜
生のくへとも仏ハうせのかをひはハらくしとハ生
とあくりろしかくし猫よ花よ白ふるしくし
ゆる蜜形のせるの赤すあるよりくそのとくのあふ神
白ふるくしまそろをとろのんつそのんを白の
蜜くりうる

とくしとくふるよりゆるりる白そ

りくしてあるまりそう
あり大徳玉覚恵
花乃世よはとりとくそくりあん
りもりりはまりる白ろ液
又言葉乃大武ちくしとたふりりりくりとふ乃
美ふりんしけをはうくけう
りくしゆくしろくしあ谷座う
わしれりのまてわんとすうむ
東宮ふ猿楽乃とうりハ嗔恚うむあて色いんひりす
りくしりふ三河のたくひわり天鼓自鳴のりけさりり
白りあハりくしりりよりりふ神さまりくく版ちりうり

むかしはみちのくに　信濃の国の住人等　若者大海辺　自兵
衛尉　坐于大音聖人のもとにまいりて　此時死人
の骨をあつめてこれをもてかつぎ海の中にいれ
ありてこれをもてかつぎ海の中にいれ
ありしかばたちまちにみとりけれども死人となる
死つるて　ほとけ　ほとけ　ほとけ
ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ
昔の人のもとにまいりて　此生の中にて　人戸　絶　八十六　昔
とわたり　父母　生　し　昔　多　し　みし　昔　人　わ　し　昔
ありしかども　昔　八昔　そ　ま　ありし　八　く　と　ふ　ま　り
生　し　老　と　病　と　死　と　悲　埋　苦　と　別　離　と　未　不　得　せ
八　盛　陰　し　ま　り　ま　は　八　は　生　の　昔　と　ら　人　母　の　腹　に　宿　り

て三百日あるひは三百八十日あるいは風のごとくに
むまれ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ
海の中にいれ　平　ら　し　死　の　中　に　あ　ひ　入
海　し　み　と　海　と　ま　く　り　死　と　し　て　百　の　八　鍬　と
り　ま　く　さ　死　ま　ま　し　と　ま　り　海　ま　八　ま　り　み　の　ら　め
て　ま　く　新　八　ま　ま　し　と　ま　く　二　は　老　昔　と　中　は　ま　と　ま　り　て
中　あ　ま　ら　し　ま　く　年　月　は　の　ま　り　あ　ま　八　あ　ひ　あ　く　ま　ま　く
ま　ま　く　さ　し　す　ま　八　ま　ま　り　あ　ま　し　あ　ま　ま　く
昔　人　海　せ　は　み　み　て　人　ま　て　ま　ら　ま　て　ん　と　の　ま　り　の
り　あ　ま　ら　り　た　ま　り　た　死　の　風　と　ま　ま　ま　く　し　三　は　病
昔　し　中　八　百　は　病　ひ　ま　ま　て　ま　は　ま　き　年　の　死
ま　ま　し　ま　み　ま　く　と　り　腹　ま　ま　死　腹　ま　海　ま　ま　ま　の　か

たえんやそれのこのほとつのかは釈と盛む女盛の長吏
やむ。ひとりしハ新方分のつるのこのほかのかはかく
金れあり き苦ゆくうちそひくあかゆるありそのうと
賜宮后宮のうこう
ひとりかりあひとあてこれをて
うりとかんるそうあるき
みやひとひ大家ふかりかひくく蛙のかとやまひくひめ
ほかの女河ひうりこあふ
あすそそてあるこうあるかりて
うかりてしの新そうあるき
あるふかりて高のかとみくく良遅法師
ありつるかうこみるこちとちてのあ
君ゆくしけてあそんとひくん
家ひ大宮ふかるこハ法師しありて刑ひのりる
うかりしかの雪ハきてりそて
多ゆくはつるひうるかハ
やひハ城ふたるくくあひうる紀東かり国ふ大宮ふ
くあるこうる法泉院三条院かくしけやまひゆへかそて
うくく位をてありる也ひあるこ延喜の法を下り
あうらあるうて一人のこうる多まこゆくくかりけう
お位る寺国高神祥使ふてうりけるそのお父うう
してうりけうある文ふりうりのはゆあるかりけう

とんこうの男はあらうつくしきけらうと伝きくこと
うるわしやうるわしてこのこゝろをつゝしみまもる
人のひとりもなかれとおもふこゝろのかしこさ来
慶門のわらへいさまれまれくはくかしこくして
殿そめくみまたちくまれくはこゝろとこゝろ
物をひきうしてこゝらひけるやふうこゝろ一撃の
餐は蓋蓋よむしわまこゝはゆゝは血つきて巴こうの乃
服は鳥よりまて赤のこゝろ乃ゝ赤ゝうつくしてけりけるを
くゝみまはの安りふくゝかのく男はまたつゝて
三年まへ(めて)あるしてあるこのひとりまたはゆゝうとを
きくあるひてゝ食ひしやけまたはゝうくきくゝ

右大臣むひとうのこと

それのひの春のはみくうのなまた
ゝそはは杨柳よ袖のゝうゝ春
又貪瞋癡乃三毒乃やまひとはゆゝ海とゝきの
ゝ方の池とりゝ紀人の池とりゝ秋池とゝむゝ
ゝまゝと貪欲のやまひとはゝ昔一人乃ゝ若わり金銭
あるゝたゝゝ入りけるゝ紀ゝと書みよゝ世ゝ
ゝゝ死ゝてのちゝまれくゝの金乃わるわりをゝ
ゝひとりきけまゝとゝ書みはそれとゝ志ゝひうたゝ
るゝまくゝ世ゝのゝゝ紀のゝゝゝゝゝゝ岩敵をゝゝとゝ苦
患とゝゝゝゝし絶よつゝく諸苦所因 貪欲為本ゝ

きのうしんはうろくろうみのしゆおんこうく弘
ゆうくやとすると一切の悪業ハあくこうんうくもりあと
ゆかもこれをうくゆくもむ下次ハ瞋恚の病ハ
うくをそそうりをおするゆし仏異山乃うけの意して
世祝法わり一時一人の新ゆ法座ハ法くあり仏色をの
海鴻とうんうそれ毒ゆ一ゆむ一念乃瞋恚のわり
しおうりて大地の穀とうけうりと作るまけうあまこの
みあり一生涯乃あくさよ世間善根功徳あくこくせ
とうふと一念のちんいとおこを仏善根のたき木ちんい
乃猛火ハやきうしあり世とうり又愚癡の病とうハ
ちうりあるとうふくうあり仏法のうもとしこうを因縁の

あくうりとちうを善悪をもるれまんそうんうく和えよ
ちちうを彼戒飛業とそもをひゆくよ大地くくに
あらて生くくせくくお若をうを世しむ一人乃悪人文を
つまくくをゆくお本のけをやをみあまを蚊とうふ
むくちうひうをうひつさ毒世を大あう棒ますを
ううけうりくお親をしにうちうくあり親をこうさ
むくを思ふひをくぐうあうふうくく逆飛をあくり
空百空病ハひ世をうりのやまひし三毒の病ハ生くせく
乃屋まひありひくひ療治してあう和世をたすう弘
ひるうんうくせ

宝物集上終

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまんのいまこゝにて見あつかふこゝろのゆめのごとくにて
ありあるかぎりわづかすこしのあいだ一日片時とこゝろ
えぬ思ひをなすべしすべて只猶こゝろゆるむこゝろ
をこゝろにかけて一生の縁つきぬれば面をかへ色
を親子あるまじきものをいかにきんぞくしてこゝろ
はむしるものをこゝろのみけつされて孟章君の二子の客し冥途
のうらみをかへる石季倫の二千の女し生を色にかへ
しわかものの一紙の中有の雲ふむひあるくの苦
患をうけて突鬼の厨にいりて飛の涙きとたくさん
河飛のさうをとらんとして浄瑠璃の境にいりて
ふちんの海へちりすべきこゝろあれども生死を
ゆるすべしてやこゝろにかけのこたつきのひとつ
をくはへおのこひのさ獄卒のつのおりてとりて
大集経よ素子松宮及五位徳命終時示位者唯戒布施ふ
放逸今世後世為伴侶わりはのんいこゝろ
のハ命のちりおそひ時ハ身ふきこゝろ
とこゝろと世の後世の友のりと流すこゝろ冥々
うて猶行財産ハこゝろ他のたのふをこゝろ摩訶止
観よみしこゝろ俱舎論ハ再生後今世盛位死後将近突
魔王欲往前路無資糧未住中有無所出とこゝろ
ハ生れくのんち今こゝろすれぬもてはおのえんよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇治拾遺物語

月けの人をしむとしるべかり
かりそめ山のかすみのうへ

俊正僧正の歌

かりそめは月をしるべにわけ来る
この世のかりとしらずしらずは

懐大尼大原寂蓮

最期にあらはれたるよはひかな
うらうらはきまるなりけり

中納言〇〇

人の情をしるべきものなり

人の情をしるべきものなり

あるとの物をしるべきものなり

あるとは世を恨とうらめしくあるべきものなり

飛鳥井中将〇〇

我の世のうちにとてうらめしく
人をしるべきものなり

周清の関白

うらやましかりけるかな

あきかぜのうらみをそうらみうらみ
夜毎のかりの〇〇

人のつゝ紙をみるつき

須人しる者

ちゝはゝのまにつゝまれし

あるさゝ人のもとにて紙をみ

ちゝのこゝろひかれて神はらう〳〵かゝれ

の一行の周梨ハ貧乏なるよりこれを平城の食ハ法儀の

ゝ食おろかなるほうれ物ひ紀釈尊ハ提婆達多をそ

ゝまもるをみる悪逆無道の者のはなり

才六ゝ也別離苦しゝ中ハ子をかむとをもりのを

あ世ゝりの宿執のまゝ反みゝのまゝびれ抜ゝ

てかゝゝ西りゝ小文り滝わけゆゝ色の紙をゝ

ゝゝゝのゆゝひゝむゝゝゝゝゝを暁の別と中

ゝり涙の袖ゝ者ゝ

ゝゝの人ゝゝ西ハゝ紀ゝ

ゝゝ也ゝゝゝゝゝゝ

人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ

ゝゝの西ゝゝゝゝゝゝ月ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

見廉ゝ滝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

母のゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人のいけるよ風をのこしれば
あまてはいそのの別のあはみるまてわりなくはしる
のこれ世の別のこそのかけを花のこしのあはの親
みてこれこそおもてをしはまのかてをはの別れ
海人のおり　あんせう　雲師　無　をしまてを海
毎花のやこ海りてつまをおのいまう
うらにはの海のうらのうらのせは
みかのうれく高舞の松をうの海
人のうをこ中をこうはををてのやま
をうをのみちふまをひのうらか
一条後伊平の中のにこれのかの平賢のかの義者

て時の記のの公達のうの海をうのをとうのくちのの
のの世の親の世のの乃のうのうの歌のひのむ方の君
りくうりのいのせ人をて世の寺の桜の木のりく
のく命絶文定性生極弟のの陸をいをのひのうの
合て賀郷の男梨をてなのこのの俊の義のんのよ
けうてかくうこ海のけ

をくををそのこのの花をのの海の
のの海の里の袖のをくをむ
又村上の帝かくを海せをくのうのの海のまのかをた
をのけうをををのの海のりの海のかれをかくを頼の
女御の乃のを

と云て　ちゝの
さねつゝとなのりもせん
一条院　まゐり給
院の御　ゆゝしく
行のゝ　ゆゝしく
中納言　ひけまゐらせ
三河国　みちの
あつめ　なみの

中ちの　ゆゝしく
ひつまもり　ゆゝしく
又ふう　賢臣二君
人ゝと　世ゝ
門ゝ　ゆゝ
けう人　ゆゝ
ちゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ

おもひ出てなきてんとうとてハ仏法ハ[illegible]
[illegible]して曉ふかゆとみまハ九つまるゆ[illegible]
[illegible]
くとみふかの[illegible]
てもわすりけりさて[illegible]
ぬさすて[illegible]
みやんハ[illegible]
[illegible]
きうんぜけの[illegible]
年ちうんかまて[illegible]

[illegible]

この[illegible]
[illegible]
すみ[illegible]
[illegible]
[illegible]

波提ハ仏師ハ我国ハ滅ス　ヲ
迦葉ハ四滅朝ヨリ　ヲ
ヨリ　ヲ
三ヲ世界ヨリ　ヲ
ヲ
ヲ

[illegible]

又ある人信心ふかく和儀して別宮の女ハ[illegible]人乃めふ
ありて難波の浦へまゐりまゐりにけるの男あり[illegible]
あるりて芦をとりて[illegible]をみくに女
わ[illegible]

あ[illegible]

男女[illegible]

[illegible]

あ[illegible]来[illegible]苦乃[illegible]ちをつく観世音菩薩ハ一切
[illegible]乃[illegible]人貧苦[illegible]

なめ[illegible]菩薩乃行[illegible]
[illegible]苦父[illegible]長[illegible]母[illegible]摩戸[illegible]女[illegible]の兄
[illegible]早利[illegible]速利[illegible]二人乃子[illegible]母乃[illegible]
[illegible]女[illegible]の長[illegible]
世中の[illegible]
[illegible]乃[illegible]人みな[illegible]
二人乃子を継母[illegible]山[illegible]
[illegible]七日[illegible]
[illegible]継母早利速利[illegible]
[illegible]苦[illegible]
[illegible]貧苦[illegible]
[illegible]一切[illegible]

すけうろの乃苦患をすくいんとゝ願力おこりてこゝの
人根を勢至とゝり給へ母のまゝ菩提ハ観音ハ
ゝり給ひぬ又ハ三人ハ観音乃三尊とゝ申れ毎ゝ
みとゝ申て給ハ心乃補陀落山ゝり是観音ハ海を
てゆくゝ又昔ゝ空小国王ゝり大象をゝひゝのまゝ一日ハ
ゝの茶とゝ毎ゝ一人乃菩薩ゝゝり給ひく
象ハむひて象ハゝゝ我ゝゝ我ハゝゝ
ゝゝゝ

て貧苦の人のうらめしき事ありけり堯の代は九年の水ありけるとぞ長雨の降うらはるゝ事なかりしかども人死なせたりしき事もみる事なかりしかば生死をいとひ菩提を願ひて世をすてゝ山にこもりしき事ありき

第八の盛隆苦とは人のうらやむ物をもとめ求むるあるいは国王位をもとめ求むる時のあるいは国王位をもとめ求むる時のあるいは国王位をもとめ求むる時の

無間地獄ハ八ツ有り其内ハ八ツ有り其内ハ八ツ有り
しかるに衆生を大盛隆苦と云ふ
此は天上と中ハ快楽を殺すりと云ふ
[illegible]山の裏と云ハ一ツ[illegible]
[illegible]
[illegible]

のしるべ生死をいとひ菩提をねがふ人の
ありけれども女人はきらふ死者は死
をとりあつめて人間を受てさへ無
学の道はなんや冥途の苦よりもむさ
ぼの業をうむ
おのおのをやしなひて六道をはなれてつ
ねに仏に
ちかづきたてまつるべし
仏女はいとふべしとてありしかども
しらずやつねにみるべしまづ仏ありし
乃ちけぶりにて
なほ生死をはなれ
ぬ信心の
おのづ
から
仏の世乃利益より
れくれ
流生六
乃ちいらんはんすりの
法花経乃六の巻は是法華経の

成生の悪業乃因縁をもつくり
仏像経典をもつくり
三宝の
名をもきかせ乃人をもつくりぬ
仏はあり
ありしかども
仏はあり
ありしかども
仏性
仏
仏
仏

第二は六〇三宝を信ずべし　第三は六斎の精
戒を堅くたもつべし　第四は行業を修むべし
第五は仏を念じ形をあらためべし　第六は懺
乃業障を懺悔すべし　第七は六道の衆生に布施を行
ずべし　第八は観念をこらすべし　第九は
善知識に親近すべし　第十は浴室に参詣をすすめよ
第十一は法花経を読まべし　第十二は仏舎利を
たてまつるべし　これ等の願をたてゝ日々に
怠りなくこれをみしかり上へ祈ゆるしたまへ
下へ対して法ものゝ有りみなこのらくなり者はこれ
ら仏菩薩の名を唱へ　楽天は作をうもやう　窟主

八徳をあらき楚玉は琴を引人乃仏に成のよわ成乃
色は十二のつをそなへ中くしわまれ仏乃
ひんるをはらめ給てみか仏道は入給ぬまは仏
を祈くはこれ先ものひく仏なり給ふ者
第一は仏をあらてはあ遁世して仏のあるべく
中は市またらの行也万法はみのあるとそこに
別の法なし　念仏ばかりて浄土をねがへ先生の願
されて彼観法師は人参石よりはこのめはものはの
らをちんをとをへけるをおこさんあはは紀な
ふをうしへきなり　梅松の林は入人はるをつら
かうをく麻の中乃蓬はためをなはすくなり海は

うの如来八万四千の法門は仏の天眼の相より
のぞり給ふ蓮華世界の名は妙法を云ふ仏は
法を説き給ふ仏は衆生を救ひ給ふ仏は衆生
の為に法を説き給ふ仏は衆生を教へ給ふ
仏は不釈迦如来遍照志と云へり仏は
無量寿如来と云へり仏は無量光如来と
云へり仏は阿弥陀と云へり仏は
煩悩の大海を渡す菩提の山に登せ給ふ
仏は衆生を救ひ給ふ仏は衆生を教へ給ふ
仏は煩悩の海を渡す仏は菩提の山に登せ給ふ
仏は衆生を教へ給ふ仏は衆生を救ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まづはそれこの人そうのしき

菩薩の釈盛ゥ

きふまてはうそにのこきてこうかのこ

ゆりのうよのうんこうむ

爲乃命の消ぬまうおわるひは逆流善とまうけわるひは

月のまうへ乃功德をはくはつてきり一切の義をはくは

乃逆善の物をは七ふ一うはこそ中ゆうかけのそうへ

てはありたとえまおいけわりはけはよ及者こえうう

蓮さはうわうへはこうすをねすまんこうひりへこうあ

し我をしのかまりをうせはをそこんひくこう

うかりこうひくはこみうはりおはをうりはいりて

人乃うをもうひてこうへうまてくはよ鷲のかくまう絲

をおけまてし甲安をかてはかまてくありこの

てくあれ命きしてはうへ乃功德をかはこうまてくは

そのまりをはうはうこうはこうへはこうへ乃善乃

位をおしりすてて実金をかて我のかため一ちを

かりこうを笠乃面をおかくはひくはたのりみ為我

大阪わるこうてこうひまりはけをはこう善の位をたのはは

はは一切よはけこうのおこれわりおかしてはよかを

うをはくあのこむうこうをはあひはけこうはれこうこの

へ乃かはよ事かこうへはくはへこうすこうをはれ我のお

はけはの縛多羅しはうをはけはひはは我事のはこうへはは

[illegible]

我すでに七反還俗をもつて飛かりて此をもつてかの七反還俗をもつて七反おもをもつて功德いつわりとしひ也実魔
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
世ゝんとて口ずさみて紀よかしてわの海をのれて海
といふるわまいは世さへすゝあるかしいんつやいと
乃苦患をや大聖世尊のあつかまつさいつめて
きるかしいあ見仏国法のきしえんとおもて
えよ大恩教主乃尺迦如来乃出世おすやけを
ゆるあつさいはいつさいはいつさかへとて六ゝり
法華すゝ世ひんと和泉式部

うゝ紀ゝりうゝ紀みゝわかへ入つゝ
あゝかてゝゝ世山のゝ紀月
ゝゝゝいきして世世極系とゆりて仏よりゝ法へ

薬師如来八一切衆生のやまひをうめて八菩薩をして
ゝゝらゝへをゝらんとゝらひのゝし我お貪瞋癡の三毒
乃屋をひかゝけまハお離のんゝ如来乃出彩よ
ゝひゝりてすゝやうお生死の海をゝゝり法へゝさし
人彩のゝさ海の時うゝひゝゝんまのゝうゝみをを
せゝうゝへよ浄瑠璃会ゝひゝれて薬師如来をたのゝ
ゝれて妙世の病気ゝゝゝひゝ来来ゝのゝんゝんゝ
乃業病をゝて死ゝ八ゝひをゝゝすゝゝ
又大慈大悲の観世音八分を三十三よへんして十方の衆
ゝまをみちゝひゝうゝを六種よをんして六乃の祥彩
ゝすゝひゝ釈尊の出彩よゝゝゝ法華

はまろ事をぬん理世利生し人みな事をとり所をは
ゆくゆくおそれをなし又地獄菩薩ハ日ゝ元ゆの方く
ゆくゆくきはまりそのゆへハ只世如来仏利天下
おつゝゆゝて十方の仏仏菩薩をあつめゆゝ中お
地獄菩薩ゆゝ仏ゝ飛人ゝ来ゆゝ世乃元ゆを
はゆんらゆ仏属ゆ一日一ゆ仏ゆ飛人ゆゝ
ゆゆれゝ仏ゝゆゝ冥途のゆおゆゝ
仏来し地獄菩薩ゆゝ引等利生ゆゝ
ゆゝ仏ゝゆゝ魔ゆゝ中有乃
飛人を魔ゆゝ日ゝ飛人を
ゆゝ自業自得乃飛ゆゝ

元ゆゝて苦患をゆゝ毎日ゝ
乃地獄ゆゝ飛人ゆゝ造作
ゆ遊飛常会地獄遊戯靖地獄変宅代受苦ゆ
のゆゆゆゆゆゆゆゆ地獄菩
薩ゆ移ゆゆゆゆゆゆゆゆ苦ゆゆ
実ゆゆゆゆゆゆゆゆ世の仏利益ゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
仏地獄ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ

[illegible]
おもてをひらく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]時ありしかはなりやしてこそ[illegible]
[illegible]師の僧よりんしてこの死人を
山へとり葬[illegible]
て六波羅よりまいりしかくの利生はの世
のたすけをひやりはくるまのこしみるに義業菩薩を
[illegible]三井寺の内供智興は炎天の[illegible]
けく悩乱[illegible]
ひなのせけもとこ[illegible]晴明[illegible]
わるこのまこはいるかの[illegible]
の中の師逆の[illegible]恩をたりのひくに命おろり[illegible]
わいまりりてしかるに智興はやまひの[illegible]

命おろるまとはのこあること[illegible]
[illegible]
師は師は三世の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
後宮の[illegible]三男中　恩をふ[illegible]新　幷恩入[illegible]
[illegible]実報恩者とは要文をしてぶつけんは三つの中に
[illegible]てんすまはなんあいをなるかしかんをすてて
むかへのいはくおもむくすのかりと仏たん
らせ給ふかりは師はいの親の恩は三男をもかまはの恩也
師のかんは三つのをとかまして[illegible]おへ[illegible]恩かり
[illegible]すてよ師近乃恩よ命をすてかんをかりよ
て母しかりは[illegible]の親よへ[illegible]
とひくすてよ師[illegible]よりの業病をけて悩乱を
[illegible]智異のをくかり他[illegible]

[illegible]像乃不動よむひてまりて[illegible]師乃
命[illegible]うりて[illegible]業病をけり移りて[illegible]
[illegible]てくおもひてくひてあへよ他像の不動の
[illegible]眼より紅乃涙をかしくおひく世師乃命おうりて
乃わりかさよまれ世の身おうはそと仏[illegible]れて他
空屋まひつてそくかりは智異し命ひさのひは十方三
世の仏仏も一幷分身おくけこせかりのゆよ[illegible]乃也
[illegible]みくくひくしかはいまは乃仏[illegible]おくしは
[illegible]仏[illegible]おり[illegible]
[illegible]の[illegible]真言乃功徳をうこ[illegible]
[illegible]乃[illegible]一日おチ乃[illegible]のをあろは幸[illegible]

ねむごろにこの西の方とのゝ扉をしぼりて法華経
の源つきて大ぜいおのゝいて苦患をうけ地獄
地獄尼の文字の風よりもとくに彩りかの墓ホよかり
ひけるその功力にてはるかの西の方へおくり奉り
てこの世ホ楽しき池とかまりつゝんをはく
して地獄尼とうかきたゝむ功徳つゝりのこん
されて法界の三千人一度にうこの世をこの八一切経百万
返のこの功徳の間しとり又当勝地獄尼の功徳
未来のこの世ホとのゝ現世ホしめてこの死ぬ
かりしし九条右大臣師浦八百鬼ホ形よゆきわひた
まふ当勝地獄尼とうみく鬼乃神とのこれをホ又

三条の大納光行ハその子の時神泉園にてその百鬼ホ行
よおひたまふ乳母の衣のえりホ当勝地獄尼とぬひ
てみしゆへよりそたとうの法ひけきさ長めてこの
乃ホてこの陸地獄ホ行ってこの功力をむのしくのたん
らくこんとつをぬし又僧を供養ぼへしとの八仏地
法のくハ持戒の比丘をれのくハ破戒の比丘りハかつらを
そり墨乃衣を着ろ法師と供養すハ　持戒破戒
をさきぬてとの大悪ホ当わり恐をホくみて出その
名ハ家とまつれとも恐ハ家とのぬ僧ハ破戒のまた
供養すまハ家とのぬ僧ハ破戒のまた
備衣乃ホてとの法ハ蓮華の花をとの面つりとの

後のちくらうのあまりのまてもはいまんのあつ
ふくまさかうさうし弘法大師ハ切漏ハ大地の
をあまりたのふ法人よりてこそ白りかりそあ
おかの祈とゆうむものをあくいつをしく維
ひしものをろうあるおかとあるうしくしく九
一切の百虫よりまれうみあるうへかさかき時乃たるまを
よ老僧をろうひしくはあ百生の百たよむまを
さまをハかあるまを法師と仕費すへき事ありその功
力おりて法生極楽とあるうきあり

第三ハ戒をたもりて仏ものをとりハ如来の禁戒
の城ハ入ハ生ハ八万四千乃魔業煩悩の軍乃勢と
おうしせあきをとりとりまりうをうさ海一束わ
梵網経ハ戒をたもりへハ浄土人天乃報とうをとしを
戒をたもりさをあるハ地ハ畜の報とうんをとをたもり
又成実論ハうをたりさをあるのハ為くれをんをん
じうををとをとをへ者交論ハ人をんをんと
をとをとをあるをあ戒をたもりをりとりを十通律を
ふをたりへをハ二十八乃菩薩戒をとをりさゆへあ
くをあるをとをを言をとをあるをとをを

この五戒は日月のごとく八葉蓮華のごとし五戒より出でて五戒より出でて
八万の律儀三千の威儀ありてこれを
仏妙海大師の十戒と云へり提謂長者のたうそう
の戒とは五戒より出でたるなり五戒とは
一に殺生と申へり殺生偷盗邪婬妄語飲酒なり
殺生とは人畜の命をとるこれなり殺生国殺の
殺人業とは人畜をとるこれなり殺人とは人
をとるこれなり殺人とは人をとるこれなり
殺人とは五逆罪なり七食をけるふるまひ
をけるふるまひとは我とうまきらりて
殺人のこれ出たりなり山僧のぬすこと
をして打せむとせしとき殺生戒と
ありしとて
ありとて
ありとて
あり

ばくあのとき紀莊漢と業しゝ海依せむとてむかへ
ありけり奉をうちまかはす莊漢まのまりとやりけるに
基の切へきかはりけるとき海へしとれとあとを莊漢と
きまて行こ海とんをてすかうち類とこうちなる海その
後亜生奉をうちとて始ひく莊漢をあまへしと語
始ひあり時とるとれとうのひつるかとおきりとやせ後
まんうれるとかのしみ漢ろしく思つめりけるとかか
をうるに仏乃はまよ系りてひわりさ海とやはひけるに
仏はりてはあつーまあ生ろ海とて四の中おまりく
きさの莊漢は農夫とおりき四とはうりけるかおお
激しかものくしすは蛙乃ひとうちまとの農

夫ありけるに甲斐はくして飯こあれとい海その業
をはくとむとあおのはうろ海ありとのをりわ
まちまかれしいもやんとてあるむ報とや始
生死より補佛乃利益よりまてく六趣おの摘四してあり
むは不殺生戒をたもつはりしゆへりとを佛はこれのあ
まうへとくくものく命をとの事あるま
二は不偸盗とりは草一すら打一かんとはよとせはて
海つてはいるむやそのかれのとや昔憍梵波提は
はさみよのかりおかりて海梨をやりたましゆへ
六百生のあるは牛乃うちとかりあるはは仏の拘
とはすとあるのは生と世とおはのあれのおは生海と

ゑのふされく涙ハ行りてそそてゑつゝ
今生返生おわさ海ゝき来ゝり所ハ賢人ハ他の
わゝつゝゆゝ来おりてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とと暫くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

一人乃子をのらさ六つよりしゆまれ仏道修乃乃た
めに家をいでんと志けるをはつかれとなつふかんとくい
しくいかのみそして是よりはさる紀さけ乃つ
ひんさふそのようにかへ出てまりぬそのゆよりお離の便
りくてゆめ百生の名六趣より横出してひくひしてつ
経漢の果をひるまむしの六つ子ハ今より横出をんを出
ひすかつらひくすかりとそのくあひけるされて婬欲ハ
中一仏乃のさ海るけ也花表沖よりく女人地獄使徒新
仏種子外面似菩薩内心如夜叉と乃へるり仏ん女ハ泥獄
乃法ひてくく仏のまをとら面ハかりふ似ちとゆを
仏ハ鬼乃あるしとるれのをくむ一阿育大王乃后ハ絶子の
嫡孫新太子をひけるひれとも世のあざけりをおひて
法のふ法人のハれて毒眼をとらでをのりをたこと
年法のあのよ紙海かくこふ法ろ女ありゆゆゆ
かくいうくめのりわるハ畜生ふむつ海のくあり
是みる婬欲のたくかれ不ありらくけるちみを色
しをれも在家のめのハ一人とはゆくをつりさ
をくく嫌妊の月日乃時をかくい海めをてら男女
乃縁りくそて仏の益わくむやすくやふ婬欲をて
かをてく安上菩提ハをかくく仏乃と神ひのハ色さ也
ゆよ不妄語戒とゆハそくをくとはくく海めの
ゆの毒地方をとらみ方の剣命をとりとりそくを紙

いかゝ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ

行者のたのふ大歓のかく紀をうたんと思て善人
の勢をそなつく一足とりそく東かれその時勢会
の猛勢をひかへうれくみけく稚女をとりとつてこ
ゝ[illegible]とはすれはいかく怪力の女こゝ強女をおこたん
とはるかて善人の者紀はよけをはけのふ妻命のかく紀
かろひうせくを高乃郡ふわゝとかりて楽かりて
ゝくひ生義をうゝ国東のかゝくゝ如来の禁戒を
あのりて後世を祈ふ命一生ハ一ま行きしあの
ゝきりすゝもゆゝをこにふ命ゝはくうの東を
ゝくゝ伝ふ国人を持戒者とかりゝ又不快酒戒ゝ

ハ酒をのむまゝ紀東ゝ紀の酒よえひぬ生度けん
をみゝて方の戒を取ふゝ人よをふかゝめゝ也
ひゝて笑よ長者かり一乃善のゝふ酒をけくまりて
ふよゝてすあゝゆ泉のゝゝ長の高ゝかへく
酒瓶乃中をみをハゝくゝりゝき女かりゝを紀ゝて
ゝをかむふくゝひけゝハ年ゝろ妙をゝみ偕老同穴の
契りけゝかゝけゝて五ゝよりをハあゝをとて
瓶の中かゝらゝ紀女をかゝをきけゝをくゝ怪者生度
ゝをゝひうぬゆれゝふ裏よをひゝを紀ゝてみを
ゝ女かゝてかくかゝゝうゝ男かり生をゝひけゝを
ゝをかゝの密夫をかゝをき我をすゝ者

こゝろをんなのたくみなりとおもくうらみすてゝ家をい
でゝ一人の婆羅門をもとめて酒瓶をもつて男
女をしるべきをひきて酒つかせをりあり
夫婦のまへにてうりてみを治てたりしのうらみ盛
ぬ酒をもおわりをもつて酒をのみしてのちゆへよ醉よ
て性をうしなひのうとをうしなひてあさ海
ちけをもつて迦葉佛の時一人のうどそくあり酒を醉て
ゆをうしなひゆへ人の女をひそかにおかしてわれこの鶏
をぬすみてのうしけるわれ是をゆくかたらけをたらん
しわれをひぬされて飲酒邪婬偷盜殺生妄語の六戒
を破りしを細に十種律のみしたり又譬喩經に
記のふ孔意の三業の惡行ハ唯酒をもつて根本とし
て不飲して惡道を用ゐる尽しかう又梵網經ハ
を見てへよわるふ百世の間あるいハ生
ひやうのうをけすしよりそをやとう記のふ又大論ハ酒
ハ三十六種のそんわるゆをあせりうのまをもつて
のうし酒をこのしりのゝ物をうりくはしくみる
ふ毒さるをのり持戒のくめのハ第一の記し
者ゆるより病くの行業をはなれて地獄ハ畜
生ハ餓鬼ハ六波羅蜜を行ゝ一ハ二ハ三ハ四ハ五ハ六波
羅蜜ハ一ハ檀波羅蜜布施のをもし二ハ戒波
羅蜜戒をたもつをもし三ハ忍辱波羅蜜忍をんわん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みのゆへよ我願依とそとゝり又云極楽不思議西方之量無
極宜見元生性生安楽国とゝりけんはゆへこの極楽へは
ゆくべきなり一ぐゝ一ぐゝの元生し極楽へは
生るとゝり彼ゝ成就なるゆへこゝ行りこの法
とゝ申へしこゝ堂の後新医王乃ゐ勝鬘夫人ハこゝ行
しかゝ行みゝゝ行くしてゝよみ申さくゝ行れ
ゝ行ゝすてゝくしてひゝゝ行ゝよかゝしゝ行ゝ
ゝふ行ゝ申へ申りて法ゝ申ゝ法へ申ゝ行ゝ
れゝ申の実行みゝゝ行ゝ申ゝ行ゝ行ゝ
よみ堂夫人乃ゝ申へ申ゝ行ゝ申ゝ行ゝ
ゝ申ゝ行ゝ行ゝ法ゝ申ゝ行ゝ行ゝ

一度行ゝ申ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ
ゝ行ゝふゝ行ゝ勝鬘夫人ゝ行ゝ行ゝ
ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行ゝ行

くい新世より出家の門に入りて此経を受持
奉る事は此門のおきてを堅く守りて
おりしの時お世乃ものをうるて造立仕奉
る也あまし彼力乃ゝくたらねしみしー微妙尼
のゆり寄命通をぬてむしーの事をかりてつく我昔
出家乃素たらー時絶世をやくみくひきをお彼よ行をさ
ゝけるふうもう母あやーしーて我をうひーこゝあ得乃
撰言をそくらんどを撰言ゝたるゝ仕奉世くおう
けりき海龍溪の果をゆくまを彼り是乃ゝうまて
行をゝ紙もゝうゝ苦患ゆりとをうゝけるゆゆもゝ会
をゝ仕不の彼ゝ世くおくゝゝゆりゝ紙ゝゝゝゝゝさた

ゝゝゝゝ第六寺乃得業八大級若仕奉すゝき彼をゝ
ゝゝして儀よ命ゆりけるゝ閻魔王宮ゝりゝ人ゝまてく供
奉をゝけてゝかくゝ仕生紙ゝけるゝ也ゝりゝの時炎魔
王ゝゝ為ひーゝゝゝゝ級乃弟一教世徳結縁者雖有
重業障必當得解脱世ゝの八級乃八弟一ゆりゝ世徳よゆゝ
ゝんゝゝゝゝの八業深ゆりゝゝゝゝゝゝゝゝ脱ゝゝゝゝ
ゝの仕炎魔王乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業藻とゝんけ乃ゑよのせゝく生死の海とゝゝく
やうこの屋おゝ海つゝゝりゝれて善賢菩薩八有相
分相のゝんけとをゝへゝゝりまつ有相のゝん者ゝゝゝ八
無相生死ゝりはゝくゝゝゝ

海こゝろくしゝてゝ笑よわるさんかりたるとりくむ
ふ人百人のうちとゝひ風よ海をくゝ毒をかしゝ大海を
こゝりけるかゝくしかくゝ大猫髪わくにはら大猫
とゝ沢眼よ者りとゝ毒りの毒とゝくゝ海
まれりかゝ猫ゝかゝとんゝゝゝゝ百人のりゝた
んと海ゝゝ竟ゝゝかゝ毒ゝかまりひゝゝゝ
中ゝ人のゝくかんゝりかゝゝゝきかゝゝゝこ
ゝゝゝかゝりゝくゝゝかゝゝきゝ海りきゝゝゝ
海ゝかんゝゝ方ゝゝゝゝりかゝゝゝゝゝ方
利ゝ中人ゝれゝゝくゝんゝゝ業悩ゝ
ゝゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ化ゝ

きしくゝりて海よゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝ
ゝ業悩よゝゝゝゝゝゝゝゝ利利居
ゝんけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
命をゝゝゝ父母よ孝養ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
命よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又八悔ゝ業障の水母非功皇后昊天退治の時ゝ

殺生をこのむ事ハ一生の悪業なれハ人間の中ハ
急ぎとゝのへて八月十五夜ハ放生会と申ハ
あるべきなりとて人をつかはしてこれを命じ
ひるの泰山より高く海よりふかしと云
如来ハ人間男女ハ一切の命をたすけ
てくるしみをのぞき給ハ慈悲
薩埵なりとて報恩をなすべきものたち
ハ一切の衆ハ一切の衆ハ一切の衆ハ
ちりあくくんをたすけ給ハ
皇桃偈言とて
のへのはくく

孝霊ハ
きるのハ
しろ
人と
毒の
ん
て子を
たかう
ゆ
ん
孝霊ハ一ツ中ハ
ハ海ハ
ハ
ハ

それ世ゝにたゆまず命をすてゝ孝をつくしてゐ宮して
をさうさ世をくおもひ出ふかんみ仏教沈
世人者子造諸罪堕在三世長受苦と説給ふ
世の人ハ子のためにつくるつみを法をとけそうして三途より
ぬけてのがれ出ることなくへかりそうてう
成就すること疾くふかのりあるべきこと
うの国司の家にかりたもしてのがれつきおくりあり
小女をすてゝの母ん来とうれしみく禁長のうしに
ひくのりまりと思ひく母を山中おくりてゆきて
ろうとうとする時大地われくるの火炎あらハけると
母あ子みくりと出り紙ものくうれしなりとをりへ

なけくわれ地ゝおりて火炎ゝ子ゝ命ハ
をなおそれ出りてゝ地ゝ子をひきいれ
ゝ母母生をけ命ハ父母孝養のゆゝ
ゝり世ゝりゝ人ハ孝養乃ゆゝ
ゆゝ三途の苦ハ若おせ生ゝ父母の恩法を
ゝたゝ人身をけゝ時孝養をなゝ
れゝゝ人ハ孝養のゆゝ仏ハ母孝
養のたゝ利天より報恩経と説給ふ又ハ
ゝ生ハ仏を供養ゝ父母ハ孝養を
すゝゝ又孝養の人ハ中界の浄土ゝ
ゝ説給ふ中界ゝ利居士乃懺悔の天意ゝ

ひ童形のかりてうんけのらくわりはせんす
くひ[illegible]ん[illegible]れ[illegible]ハ飛をはくくむへん
けてんをかくかくかくもくれて行天ハ年の
者ハ三千佛の行者を喝て年中の飛とうんけ[illegible]
仏者とやて海よたくはかくくせ山ハ[illegible]
ゆくり平の[illegible]ふ

わくあのせくしはくさハけそわ
はくもはくはくはくやあん
佛のかくはかくよ

十死ハくはくて海くの年
三世のかくはくしよう

年七ハくくハ他をもして仏の年とやハ仏仏ハ
みか他をもして云元りの者を拙波社密とや
りり珍樹蓋ハ仏のすハ月のくくもくう
くく仏人ハくまくくとは月ひはくみはは死沙ハ国
城書ハ月髓悩身内年是ハ惜ハ命とのハ
山ハ仏はのためハ国ハくまくのくハくよくた
仏ハ仏仏ひ命をハ海れくれハれだ
ひ大ハ他よかくくくくくを驚おわくハ蓋塩
ハくくハ海虎はくはくくくハ雷山童子ハ年偈ひ文
お命をくて仏ハ眼波社ハ日ハ紙わくわ
くのハ又ハ周世ハ他をひくハくくハ仏仏独ハ

和尚くゝ仏に祈り申しけるは閻世王の王文より祇園精
舎をとり給ひけるふかい貧女也とてくゝ二錢を
もらうと申さるくゝわゝけるは大ハ法
きゝて申のゝ仏のゝ名ゝをとなへ申りけ切ゝ
より三十劫をつくゝ仏ゝ名ゝ波羅蜜光如来とゝ
ゝ仏を供養申けるを貧女ゝ一灯とハゝくゝみのゝ
の世ハゝかをゝゝ現在ゝ世をゝゝゝゝゝ
ゝ笠ゝ給師ゝゝけゝゝ化ゝゝゝゝゝゝゝ
おゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
三十劫ゝくゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ食ゝすゝゝゝゝ給師ゝゝけゝハ仏ゝ金を
もらゝゝゝゝハくゝ今生ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海の光明皇后湯をつくりて千人の乞食を洗すに
ひとりの乞食ありて皇后に向ひ我身に
つきたる垢をすりてたべとのたまはせ
ければ皇后行を修し給ひて
まことに仏の垢すりたりとの
又は閻浮の垢すりたりとの
つゝみ給へるに仏の
乃ち垢すりを作りて仏布施の功徳を
きのふは三千の垢すりわたりてきたるを
めぐりの垢すりの垢すりの
まへをたゝのあかりこのあとにあらせ乃

乞食の光明皇后湯をつくりて千人の乞食を洗すに
ひとりの乞食ありて皇后に向ひ我身に
つきたる垢をすりてたべとのたまはせ
ければ皇后行を修し給ひて
まことに仏の垢すりたりとの
又は閻浮の垢すりたりとの
つゝみ給へるに仏の
乃ち垢すりを作りて仏布施の功徳を
きのふは三千の垢すりわたりてきたるを
めぐりの垢すりの垢すりの
まへをたゝのあかりこのあとにあらせ乃
ちくいたるこゝろをいたしけるにかゝるあんぎやうの
乃ちこの垢すりをしらせけるに一枚は百まいのひかりを
をかけよ百枚の垢すりをかくして布施のかたちをかくして
しかのみならず未世にあつまりて
すけとなり未世にあつまりて地獄
かく功徳をほどこして二ひきの
ほとけを貪窮苦厄にすくはんとの
すくはんとて獄卒をつかはしたまこと
ひとりをかくしてあつまりていろゝの
ほとけをつくりたまひしかはまつりて
谷のあかりの一ひきの僧をほどこせんに

ものをおうろへてくて吹噴すると云りとやく一死一
枝ありも仏法僧よりてうて仏果乃源くあり法
者八ま 釈念をのして成仏とも八法法八釈念
ようろゆへよりもん称んを用りたと仏四まの居
のしてとあさむりあしかつ死人八業の庵乃内
あのしてしたの極楽浄土おいてむまを願すと
仏あくと表てれ有く かいわくひとへもわとり
ぬまとろ来のしぬたく角てきまつりぬまハ
りとの海のりまれ実わしみくれおそ　あり　我ん
のまをかつもん唱りしてきりあろ時ハいろ月すの
りら仏祈のり悪念強盛りてまりひろ時ハ極楽

飛の悪人のり 釈念おくしてハ四ひのやくとれ
たとんてわろ人なまひ大来おくすてふ死せんと法ろ
時西をへて海二人の子とりけりしひつ乃けま
てまちち死しの子きてあへをおり海ろ日まを乃と紙
をおぬしみくしけるけまを乃よりろ死塚の穴おり
けるふおりへくかつ見ぬ日りの子ハ乃と現くして
わとるりしひ者海ろあまてくろ乃をを殺しさふあ
穴よへ乃れてはしめへしろハ鬼乃来りて我をくもむと
すろあやとふひ波よりりろふハ塚の中ふ鬼おりて
我をくもんとしろとふひたりひよりとれしとて二人
やをもおりりみつをあひけりりをふ衣おりてみをハ

兄弟なり生死のつとめをはなれぬ道は菩提の鬼なり
菩提の暁をまちぬる人は如実相なりと云也又空
観とは法性をみる空なりと観して著とをもはる紙
せこなり身を観する人は蓮の如くに根をとる道は
法華経を信ずる人は蓮の如くに根をとる道は
生死をすて涅槃をすつる人は蓮の如くに根をとる道
まぬるまのひとり身をみるに身をみるに身をみるに
裏の日ぬるり方法の道をみるに身をみるに身をみるに
見しかり切法しかり浄土しかり此くもかり此観
いとりぬる人は生死の法をあるくをきくを云
法華の蓮ぬるくるし又不浄観とは我と人と
此身をしめりかりまして不浄なりしたる人は後と
うきたる魂よりんとをかうしてをかうしてをみかりしてわ
らをとしをきき事はるをしたる人の紫よりを金をしかり
うををとをれしかるしをはをすをしたるのかをしを
事かり白紙をかりぬる赤き唇ハ紫くをんして
出たりうをの死不浄孔海をしたる死者を観くをひ
太ハ白紙をしたる死をしてを焉ハまかをを紙をしたる
動ぬをうをはをの死をしたるをおをしたるをの死をを
まりたる人のをまを死をしてををを引紙をしを
おせんをを観念をのをはをををを生死の飛漢をを
すをををまをを不浄観とをを也たををわを業紙をの

そのとき善行とかの八歳会よりはじめ煩悩即菩提生死即涅槃ありあるとしてそちらのほうこの大海
きらきらとかがやくかの仏の光明つねに八方をてらしたまふ
此とくおわりて弘法大師八歳にして涅槃に入給ふ
弟九に善知識とは八歳の会にて仏法の一生涯の
わかさを逆をなせる人の命をかけよ仏法の利
火乃車を引く国乃主よ善知識の
とくよりの八十会の一会のそりきりて無量の
法をとくなりて火の車はすかりの新牛車
とかりてのうきの仏法をかりもの仏のまふはせ

つきかりそれも死魔すは善知識者是大因縁と
のへかの又弥陀如来八珊提鬼国の無禅会をとかせ
時宝海梵志乃すかりくそうの仏よりの人をもりた
まひ仏乃成就して西方極楽の元生成りしかとすく
ひのひとの仏乃摂取かくかりの世は未法万年ま
て弥陀乃一教をとのむへきかりそれを後一条の院の
治承とり法華の中おくまりまりせうと作下それ
法よ云ちう御土ちうみを教力ひのちう安国ご
くらう人ひさとうごんゆいせう法華仏生摂不捨
と三塔の学生ちあつまりてけをとれねとそ
きけり西とおまて国世来代よ生れく色云とくの法

仏あるすてらまとまうせてく宮殿生死よりこのかた六道よ
らんりんしゅうひろ衆生他の方便ハかりとされども
法他と称んせ法ちらく〳〵むくんとらひの悪世
を離りたのこ所へ仏の法華経ハ
あるこハまり海を移ともちりの法他の教ようてう
こと法ハ周世まハ又とあるひ〳〵ものひ〳〵ハ普賢大士
乃ちく〳〵より霊山の独元ハ法ハ成仏とハ
ふ又ぶたるのこん者太乃こ教ものあるひく
せ一と法ハ仏ハ若知識よあるこんかりこ教ハ我
てこあ海の海仲ハあまりおけくあて仏の名字ハ
ふあてちく海賢法眼とゆみの延寿寺すありこ

あんの使教そのかりこ流ちとうこひく海の西西
乃ハ教ハりて生死安常乃ゆこりこちあるハ法
海仲こりとゆく風てたんとおこ法師ハあり
て友紀の鶴三百りとちかりあるくの網てなこす
こ〳〵かく教生とゆくめて仏とかあちり法ハ是と
海この若知識よあるこんゆりこ又海のかひかっハ
こりて教あとりたりけりこ三りこれ他へゆく
東ありけるハくて海こさりこひくこれく
く海り書のりくへりこれてりもちて門ちこて教
かりの東そこ人ハ法あこせこを法ひく長今名へ
空へとりまくせありとふときてんて海ゆくこりて

あ〜乃ちちとあわく祈りてそれより後へよりてみま
くかの沉髮とつけかゝわくしきかゝらとたのかゝ
てちゝ母と尼ゝ命ましすてりてゝ南〜かゝりとかゝ
ゝとりくゝ法師よりてくゝそゝみあう
わゝ〜〜そかゝりかゝとけりわゝる仏
あ〜乃ちの世ゝ世ゝ世りせん
ゝてかゝ仏ゝと法ゝ〜ありゝ六ゝのゝゝとう
あゝかゝまて法師ゝあゝの後ゝこゝまてゆゝりけゝう
後よる尾乃てゝあゝ母のたゝかゝ八講とあゝこゝあゝくせ
法わゝとのゝけゝかゝ日のゝよゝあゝとゝゝくゝ八母乃ゝゝゝ
わゝゝとゝゝまて〜月乃あよかゝ母ゝとゝゝくゝ八上人

地獄よりゝ来ゝとゝひゝんとゝひ〜とゝれ〜とゝゝ人衆
よりかゝくゝゝのゝ〜ゝゝゝんゝゝゝ車のゝゝゝ
髮とゝゝりてゝおゝりのゝゝり笠の下ゝりゝゝゆゝを
きりてゝおゝりのゝゝりかゝゝこれゝ百人ゝゝゝゝゝゝけゝ
ゝゝゝ乃来ゝ紀ゝかゝかゝ〜きゝゝふゝゝゝくゝゝ逐世法ゝ
と仏八善知識よゝゝゝとゝゝのゝけゝゝゝくゝ善知識
ゝゝゝくゝ年のゝゝ紀時ゝゝめゝして仏よりゝ世
才十ゝ法師よゝ乃ゝとゝゝくゝ仏ゝゝ法ゝとゝゝた
ゝゝ人作ゝるのゝゝゝゝ八十よゝゝゝ母ゝて悪唇精舎の方
ゝて戒とたゝりゝゝゝゝゝ法師よ父と尼乃とゝゝ
て一念のゝ地とのゝゝよりゝゝ六趣よ極ゝゝゝゝゝ

わらも若宝物あり　みぬ法師よ　地獄とのこせ　ゆへよ　地獄
かりて　義のうらとそこ　又元宝　僧師　ハ坊の天井ハ
百貫　銭　かつて　と　紀　法師よ　思ひおせ　一会　て
地獄　あり　ハ　の　枇杷大臣の　義ハ　見　て　れハ　坊の天井
下　銭百貫　紀　ハ　紀　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　法師
よ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

世をあつかうてくらうこひくこゝろ文殊頂を面をあて
一関法花経を完成佛とゝうゝたのうあこひくはせ
乃ゝとゝけのみ角一法花経をあるを成就し一法花経と
泥犂一たゝ八代妙法蓮華経し閻魔王のみりとかゝ
ひけ拝をひ一るゝり魔王を守護一をはり
すゝくひ法の功徳詞を尊ゝ及ゝこれをゝ
むし一提婆菩薩師子国よりけの時のゝりとゝ
ゝりのゝ百の餓鬼ゝゝまりて昔とゝけうと
菩薩わとれみのひくゝ法花経一をうみのゝうのゝらか
ゝ乃麦ゝ百乃天人あまゝりゝりのゝをゝゝをゝと
ゝくゝゆゝとゝひのゝゝゝゝくゝ我ゝ師子

ゝ百千劫の昔世をたゝうゝ花昔とゝけ申しかゝゝ
ゝりゝゝ菩薩の後のひゝ法花経とゝうゝん
ゝゝゆゝみゝ切利天ゝ生ゝゝりゝ今ゝのゝ
ゝゝゝゝ

[illegible]法花経の要品[illegible]を[illegible]一枚[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

をしへ給てより後八ヶ年をへて極楽へとそうんとらうひ
のぼり観音菩薩の御師弘法大師と参り給へとの御世を
ぬきをかれ伝絶不憤たるみをして八万仏聖教の中ふ
弘法の流すをもてりしかるをもりをの法の素懐仏よりの
をもつてうけてう過世来代乃衆生を仏よりの中へをと
をひをり法へて仏の為に百八の赤糖ををりぬをく
乃弘法の名号をとなへをへをて仏法をくををひとを
法へををひ方ふしひをれ報しわ時へ賀ををけて
名号を唱へ給ふををを

まゆうをせかるとはきかゝ東ゝ又家よりゆうかはうまを
ちひくとなかやすくしはまハかまくゆうをとれてをこたる東
かゝしりうをくゝ法地と命して極楽と称ふ西ゝ又極楽
を金銀瑠璃おんりやをちひけをはよ今一大東わりを
仏とのゝ命してかけう極楽と称うん人ハ張しかくあそハ
わゝ海かりけまをて空振見の東かゝかつきかゝちう
てうゝ行業をとゝて仏をとうう人あるゝ年ゝ月を
うしあまをてハ金仏の初つくゝ仏人をかれてあくゝりかり只
一命のかゝくはをあくゝをかゝ　須彼の玉たのこ
りかゝ海をしゝかのかりたんそをかゝかけう時面ノ去
けをてんぎノわるかをうゝをりてみをはおかゝの人ノ

わつまりて寺をて金仏の儀をゝくゝかけかゝをハ仏東ノを
するをとゝをんて仏よ極ひをかりとゝかゝ仏ゝかりかりかをを
ゝをとゝひをれくゝあをひけう極仏くゝをうをりをよ極
楽をゝかゝ人ノわゝ　わくかりまをくゝ仏法地をゝかを
義をかくゝ仏よけ東後を命ノかりを時ノかゝ仏東
ゝ極くゝ極楽ハひを人をかりとゝひ者ををゝかゝて
まれくゝをよゝひゝかんをて仏法地仏く唱くゝわゝを
め儀をゝをひをうをくゝ市ゝ仏よをひくゝをの極をを
ひんををりけをを海のかりかゝ仏ノ東ノわりけをう
のかりて西よゝひゝくゝをたりうをうをて月ををはをり
ゝ蓮華ゝひくゝ美者をんをてをりけう時ををゝさ

しの方へ出て一会のうきおもくしうるく涙音物わ
れてみる紀約うしかくてそ行くやとけの十悪くいみて
極ら接をて疾風の雲雨と扱うらし悪し一会くいみ
て必感恵をあまを巨海よ瀧嘉と網ゆるたうと
紀のうれて山ゆ十悪の流生をしみら八面
の風乃々をうをを海らしをるし一会の流生を
しすくひのみ来ハ大海乃すし紀のれをくいるゆ
うとしゆ十悪の逆の者さへ弥陀の必救まいりを仕
むや弥陀を祈しをり一生乃る正会せんりのおかそと
弥陀如来観音勢至をを行く来迎ら接し
如言ゆうわくうを九品蓮華乃聖衆雲ゆおのり者

斜よりり光明くくくくて十方の世界をてくくく美
毛苔くくて草木栴檀の匂ひとなん観音ハ宝冠
華とうをゆ行へて勢至ハ光をかして乃の世のみ鼓
琴ゆいの和メ乃くよみらて浄土の風をゆ宝の
ちらハ面くゆりすてゆ仏のみ示をうひく極楽の中
ゆくくり風爽の月ゆ安楽の宝乃池よりり蓮華
ゆくくと思く八功徳池よハ四つ乃蓮花ゆ紀ゆ
乃実ををゆら七宝の宝樹ゆハ花紀ゆのみゆり鳥
屋鷲鷲ゆ鳴り鶴鳴琴笙篠ゆハみゆう者系
ををくの鳳凰孔雀鸚鵡舎利ハきの者くををそうをのくゆ
まて仏乃みのをとをのくむゆ仏行ゆ仏ゆりんを

ら死よ耳よ目こつゝ〳〵願せ一四すくまのあらう
ゆくゝ年り十方世界よ極ひして三世の法仏とく
聞こし〳〵七世の恩をゝ紙みちひさ西源をとゝ
ら海精濁浄土絶ゆゝ百千九てい形ゆくまをと色て
金蓮千九ていかゆ女をもつくゝてこのちこのゝ人り
むるゝこのあゝを知てりむとゝ〳〵法徳の名号乃
白そくハゆゆ法〳〵ゝ〳〵その〳〵らまて法往生要
集のすらくゝをゝるゝ百ゝ方乃ゝゝゝりまて千系
乃ゝらの一まゝをゝふ色ゝ法ゝゝりまれくわゝ〳〵の
古れゝまて中くゝゆさんゝをゝりまゝ法徳を
今ゝてゝゝりめてたゝ浄土へまり法ゝ色ゝまりゝ

わゝゝ乃極系を移ひ〳〵来ゝゝゆゝ
ゝゝゝくゝゝ次の死ゝゝりゝん
世界ゝゝ影ゝゝすむひゝゝ
ゝくゝれゝゝすの色のゝゝゝ
あのゝゝ月ハゝゝ海ゝ法
尤大悲願宴ゝ光法
ゝゝハみゝあゝゝゆゝゝこん世ゝて
極ゝ〳〵おゝのゝゝゝゝ
ゝゝよ仏ゝゝゝゝて南無方極系世界弥陀如来
らゝゝゝゝんせゝたゝゝゝゝ南無九品蓮華浄土ゝ
ゝ必来迎ゝんせゝゝゝ自ゝゝゝ

宝物集下終

寛文元年辛丑八月吉日京橋清兵衛板

和本充実
91

九
一